

資料

入学までの準備

○入学説明会

就学先決定の後、各学校において入学説明会が行われます。学校の教育目標をはじめ、学校の概要、教育内容、子供の健康管理、学校と家庭の連携、災害時等の緊急連絡・対応、寄宿舎、スクールバスの運行、PTA活動、特別支援教育就学奨励費などの説明があります。

○健康や生活の状態の把握

学校では、子供一人一人の健康に関する実態を十分把握して指導を行います。お子さんの現在の健康や日常生活習慣などについてまとめたファイルを活用し、学校との連携を図っていきます。

○通学方法・経路

お子さんの実態や安全面を考慮して、通学方法や経路を事前に確認しておくことが大切です。

○特別支援教育就学奨励費
～通学費などについての補助制度～

お子さんが特別支援学校及び特別支援学級等で学ぶ際に、保護者等が負担する教育関係経費について、保護者の経済状況等に応じ、国及び地方公共団体が補助する仕組みです。

補助対象とされている経費については、通学費、給食費、教科書費、学用品費、修学旅行費、寄宿舎日用品及寄宿舎からの帰省費などがあります。

支給を受けるためには、学校を通じ、教育委員会に申し出る必要があります。

なお、平成25年度より通常の学級で学ぶお子さん(障害の状態が特別支援学校の障害の程度に相当)についても補助対象となりました。

保護者の手記

現在娘は、知的障害特別支援学校の小学部三年生に在籍しています。毎朝、学校生活に期待を持って通学する姿を見せてくれていますが、就学に至るまでは、さまざまな葛藤がありました。

保育園の年中になる頃には、学校公開日の見学など、就学に向けての活動を始めました。こだわり、パニックなどがあり、それでも日々成長が感じられる娘が安定・安心して過ごせる学校に通わせてあげたいと強く思っていました。また、地域に住む子ども達とともに学校に通う日々を積むことで、娘を知ってもらいたい、障害者も地域で生活していることが自然に思える一歩につながって欲しいという気持ちがありました。

娘は視覚・聴覚過敏、環境の変化に弱い特徴があり、体験学習の場で、泣き叫ぶ・寝転がるなどの姿をみせました。どの学校が娘にとって居心地良く生活・学習できるのか、どの選択が未来に向けてベストなのか夫婦で連日話し合いました。

入学してしばらくは、学校での様子、思いを言葉で伝える術を持たない娘の心の中はいかばかりか、複雑な心境でした。しかし、日々を重ね、この学校生活で娘がより成長していくであろうという見通し・希望が持てるようになりました。これは、ありのままを受けとめ、温かく見守り、細やかな指導・支援をしてくださる先生方のおかげだと思っています。

副籍制度を利用し地域の学校との交流を始めて三年目。商店街のお祭り、買い物などに出かけた時など、交流クラスの子どもたちが声をかけてくれるようになりました。また保護者に娘のことを伝えている姿があり、大変嬉しく思います。これからも交流を重ね、地域とのつながりの一歩になっていくことを願います。

娘にとっても、保護者にとっても、居心地の良い学校を選択できたことを実感する毎日です。これからも、特別支援教育のさらなる向上を期待し、娘とともに成長し続けていきたいと思えます。



【出典：特別支援教育資料】
 (文部科学省初等中等教育局 特別支援教育課)

1. 障害のある子供の教育の現状(平成25年5月)

(1) 特別支援学校

区分	視覚障害	聴覚障害	知的障害	肢体不自由	病弱	視覚障害・知的障害	視覚障害・病弱	聴覚障害・知的障害	知的障害・肢体不自由
学校数	65	90	502	135	63	1	1	10	132
在学者数 (人)	幼稚部	214	1,148	63	42	0	13	0	42
	小学部	612	1,965	18,724	5,420	945	114	9	196
	中学部	444	1,236	16,075	3,213	819	92	2	182
	高等部	1,924	1,659	40,154	3,641	813	0	19	444
	計	3,194	6,008	75,016	12,316	2,577	219	30	864

知的障害・病弱	肢体不自由・病弱	視覚障害・肢体不自由・病弱	聴覚障害・知的障害・肢体不自由	聴覚障害・知的障害・病弱	知的障害・肢体不自由・病弱	聴覚・知的・肢体・病弱	視覚・聴覚・知的・肢体	視覚・聴覚・知的・肢体・病弱	計
13	19	1	1	1	28	1	1	16	1,080
0	14	1	3	14	5	5	9	19	1,604
553	797	26	61	43	977	43	84	471	37,619
508	509	23	44	23	779	42	62	456	29,554
970	614	25	70	61	1,458	67	118	854	63,793
2,031	1,934	75	178	141	3,219	157	273	1,800	132,570

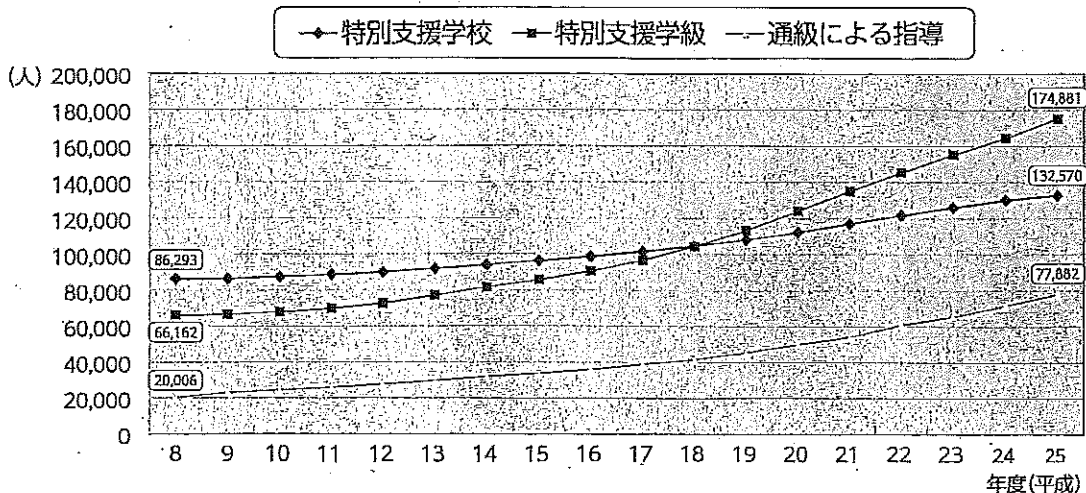
(2) 小・中学校の特別支援学級

区分	知的障害	肢体不自由	病弱・身体虚弱	弱視	難聴	言語障害	自閉症・情緒障害	計
学校数	小学校							15,849校
	中学校							7,655校
在籍者数 (人)	小学校	59,738	3,193	1,794	353	989	1,511	67,588
	中学校	30,665	1,106	776	89	411	140	33,187
	計	90,403	4,299	2,570	442	1,400	1,651	101,775

(3) 小・中学校の通級による指導

区分	言語障害	自閉症	情緒障害	弱視	難聴	学習障害	ADHD	肢体不自由	病弱・身体虚弱	計
対象者数 (人)	小学校	33,305	10,680	7,189	156	1,674	8,785	9,105	19	63,311
	中学校	301	1,628	1,424	23	370	1,984	1,219	7	6,958
	計	33,606	12,308	8,613	179	2,044	10,769	10,324	26	70,269

(4) 特別支援学校在学者数、特別支援学級在籍者数及び通級による指導対象者数の推移



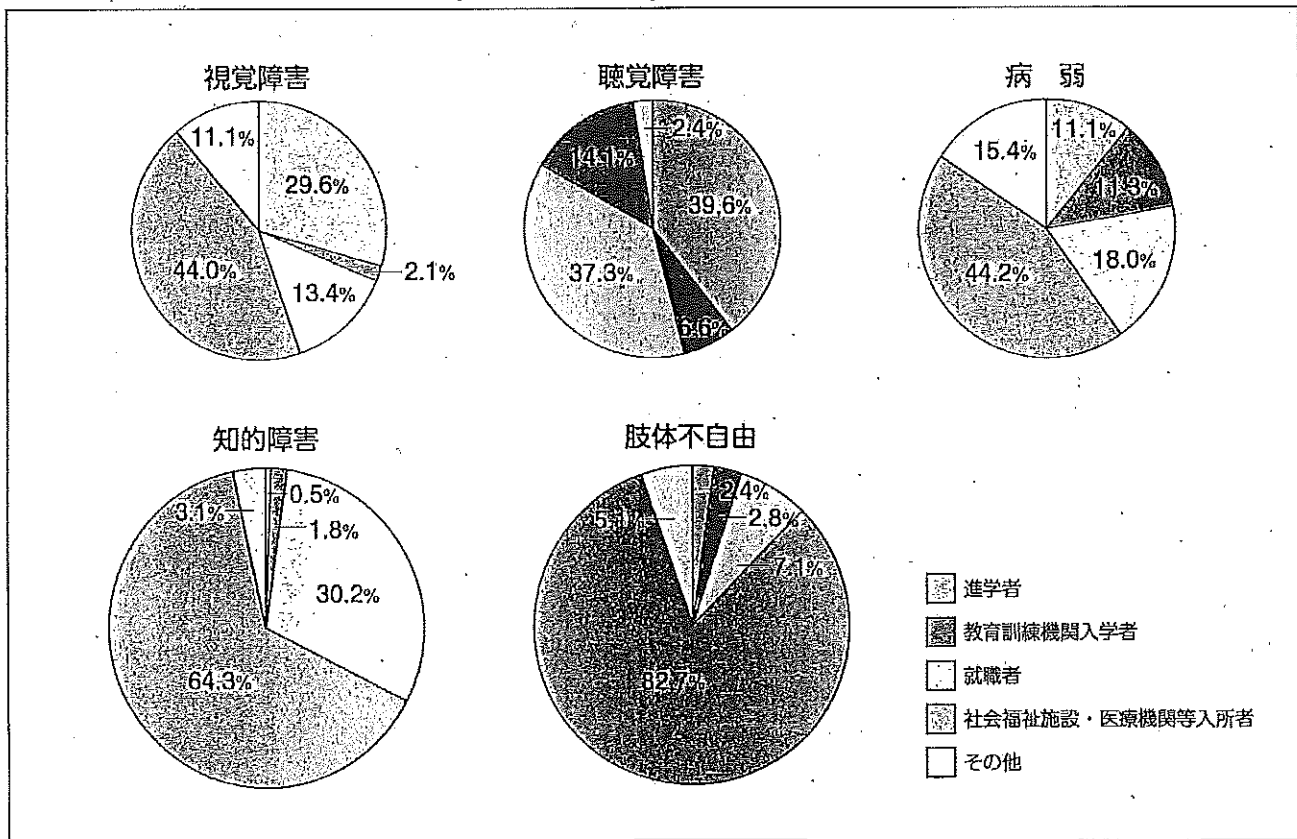
2. 卒業生の進路(平成25年3月卒業生)

(1) 特別支援学校中学部及び中学校特別支援学級の卒業後の状況

	卒業生数	進学者	教育訓練機関等 入学者	就職者	社会福祉施設等・ 入所・通所者	その他
特別支援学校中学部卒業生	9,568 (100.0%)	9,394 (98.2%)	12 (0.1%)	1 (0.01%)	79 (0.8%)	82 (0.9%)
中学校特別支援学級卒業生	15,993 (100.0%)	14,990 (93.7%)	391 (2.4%)	119 (0.7%)	493 (3.1%)	

(2) 特別支援学校高等部(本科)の卒業後の状況

区分	卒業生	進学者	教育訓練機関 入学者	就職者	社会福祉施設・ 医療機関等入所者	その他
視覚障害	389 (100.0%)	115 (29.6%)	8 (2.1%)	52 (13.4%)	171 (44.0%)	43 (11.1%)
聴覚障害	502 (100.0%)	199 (39.6%)	33 (6.6%)	187 (37.3%)	71 (14.1%)	12 (2.4%)
知的障害	16,387 (100.0%)	83 (0.5%)	302 (1.8%)	4,952 (30.2%)	10,543 (64.3%)	507 (3.1%)
肢体不自由	1,772 (100.0%)	42 (2.4%)	49 (2.8%)	126 (7.1%)	1,465 (82.7%)	90 (5.1%)
病弱	389 (100.0%)	43 (11.1%)	44 (11.3%)	70 (18.0%)	172 (44.2%)	60 (15.4%)
計	19,439 (100.0%)	482 (2.5%)	436 (2.2%)	5,387 (27.7%)	12,422 (63.9%)	712 (3.7%)



平成 27 年度入学試験 面接「概要とねらい」

(入試情報公開用)

人間発達文化学類 推薦入試Ⅱ 区分 (③特別支援学校)

資料を用いた面接場面での質疑応答を通して、受験生の理解力、思考力、表現力とともに、特別支援教育に対する熱意、関心、意欲、適性等を総合的にみます。